

令和7年（2025年）第4回羽村市議会定例会 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	2番	櫻 沢 裕 人 (60分)	<p>1. データと情報技術による市民参加のまちづくりについて</p> <p>(1)市のオープンデータに関する取組について、現状認識と今後の方針は。</p> <p>(2)羽村市版行政ダッシュボードの整備は、「羽村市DX推進基本方針」に掲げる理想のまちづくりの実現に資すると考えるが、市の見解は。</p> <p>(3)ブロードリスニングは、アンケートの自由記述などの定性データをAIで分析・可視化するツールであり、政策形成段階で民意を可視化させる有効な手法として注目されている。従来の意見聴取に比べ、対象範囲の拡大や膨大な意見の分析・可視化が可能となる。また、AIを活用した大規模熟議プラットフォームは、テーマに対して市民が意見を投稿し、AIが論点整理や議論の進行を支援する。これにより、建設的な議論が進み、課題の可視化や市民からの解決策の提案が可能となる。こうした新たなツールの活用により、的確な民意の把握と市政への反映や、市民の市政に対する関心と信頼の醸成などが期待されるが、市の見解は。</p> <p>(4)CIO補佐官について</p> <p>自治体のDXや情報政策の推進に当たっては、専門的知見を持ち、現場の実務に即した技術導入の判断や助言を行うことのできる人材の確保が重要であるため、各地で外部人材によるCIO補佐官の任用が進んでいる。令和4年第4回定例会で大塚あかね議員がCIO補佐官の任用に関して質問したところ、令和4年時点では、専門的知見を有する事業者への委託を進め、CIO補佐官を任用することは考えていない旨の答弁があった。その後、令和5年第4回総務委員会における「羽村市一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例」の審査の際、市は本条例が想定する職員の例として、CIO補佐官を挙げた。</p> <p>①市では副市長がCIOに就き、DX推進の方針や情報政策の方向性を示す「DX推進部会」の部会長も務めている。情報技術が急速に進歩する中、CIOが適切な判断を下せるようにするために、市はどのような体制でCIOを支えているか。</p> <p>②情報技術の急速な進歩に対応するためには、高度な専門的知識や経験を有する人材をCIO補佐官として任用することが望ましいと考えるが、市の見解は。</p> <p>(5)行政サービスの提供や市民の市政参加を目的としたメタバースの活用について、市の見解は。</p>	12月3日

2人目	5番	<p>2. 学校給食の安定的な提供について</p> <p>(1) 昨今の食材費高騰が学校給食に与えている影響について、市の現状認識は。</p> <p>(2) 給食組合としては学校給食費の増額について市と協議したいとのことだが、協議に対して市はどういう姿勢で臨むのか。</p> <p>(3) 令和6年第2回羽村市議会臨時会で、市長から「当面の間」学校給食費の無償化を実施する旨の発言があったが、令和8年度以降についての方針は。</p> <p>1. 市民意見を踏まえた公共施設再配置構想の今後の進め方について</p> <p>(1) 公共施設再配置構想（たたき台）と市民からの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのような方針、進め方でたたき台を策定したのか。 ②懇談会の開始時間がほとんど午後7時であった。 子育て世代なども参加しやすいような時間設定はできなかったのか。 ③懇談会等で寄せられた市民意見について、どのように受け止めているのか、また今後の構想や計画にどう反映し示していくのか。 ④たたき台の市民意見聴取の期間が短いのではないか、との指摘もあるが、どのように考えるか。 ⑤公共施設利用者・利用者団体から意見を聞いたことはあるか。 ⑥公共施設の再配置は、将来のまちづくりに直結する重要な施策である。市民が納得できるような「未来構想」をどのように明確化し、市民に情報提供していくのか。 <p>(2) 学校施設の統廃合に関する慎重な検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校施設の統廃合は、教育環境や地域コミュニティに大きな影響を与えるため、慎重な検討が必要になる。どのような基準や方針で統廃合を進めていくのか。地域住民や教育関係者との意見交換の場で丁寧に聞いていくべきではないか。 ②文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、小規模校の存続についても触れており、地域の実情に応じた判断が求められる、とある。学校規模が教育効果や児童生徒の学びに及ぼす影響は様々な見解がある。この影響を市としてどう考えるのか伺う。 ③岐阜県山県市では、将来的に学校統廃合は避けられないとの認識の中で、地域とじっくりと時間をかけて話し合いを重ね、統廃合の方向性を定めてきた。また、「学校適正規模化」の基本方針の中に、「子どもの人数の問題ではなく、一人一人の子どもの学びに軸足を置き、多様な学びが選択できる学習環境を整えるための適正化規模であり、現有施設の有効活用を基本とする」こ 	12月3日
-----	----	--	-------

		<p>とをうたっている。</p> <p>ア 13年間で児童・生徒数が34%と大きく減少した中でも学校数を維持し、学校間の連携により合同授業などの集団での学びを経験する取組を実施している。羽村市も様々な対策を提案し、地域と共にじっくりと今後の在り方を考えていくことが必要ではないか。</p> <p>イ 山県市では、学校統廃合の方向性を定めるために、全保護者を対象としたアンケート調査や学校ごとの説明会を行った。このように丁寧な説明と保護者意見の反映の仕組みを参考にしてはどうか。</p> <p>ウ 地域と一緒に統廃合に向き合うことで地域が主体となるきっかけになり、教育や学校を支えようとする意識や関係が生まれる。統廃合について学校の在り方を地域が決めていく方法もあるのではないか。</p> <p>④学校の統廃合を進める中で、教育委員会として、今後どのような未来の教育ビジョンを描いているのか。また、そのビジョンをしっかりと市民に対し伝えていくことが、必要ではないか。</p>	
3人目	15番	<p>2. 安心して搾乳できる環境づくりについて</p> <p>(1)市内には、「あかちゃん休憩室」が49か所、そのうち東京都の認定施設「赤ちゃんふらっと」が7か所あり、授乳やおむつ替えができる環境が整っている。一方で、授乳室に加えて搾乳にも対応している施設では、「搾乳マーク」を併記している自治体もある。市でも、このような取組を導入すべきと考えるが、いかがか。</p> <p>1. 障害者の「65歳の壁」を問う</p> <p>(1)羽村市では、障害者の皆様が65歳になり介護保険サービスに変わることで、負担や受けられるサービスに現状どのような変化があるか。</p> <p>(2)65歳以上で障害者手帳を持っている人は何人いるか。また、その中で「新高額障害福祉サービス」を利用している人は何人か。</p> <p>(3)「新高額障害福祉サービス等給付費」の利用について、障害のある人が65歳になる前にどう周知しているか。</p> <p>(4)「新高額障害福祉サービス等給付費」については、要件が厳しすぎるという声がある。羽村市は、要件を撤廃し、障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する人は、全て新高額障害福祉サービス等給付費の対象にする考えはないか。</p> <p>2. 地域手当について問う</p> <p>(1)2006年「給与構造改革」で地域手当が導入された</p>	12月3日

4人目	11番 中 嶋 勝 (60分)	<p>が、官民格差を是正し、公務員全体の賃金を4.8%引き下げるために、一部自治体の本俸を下げる形で導入されたのではないか。</p> <p>(2) 団体支給率を、2025年で比較すると、東京都・東京23区が20%、26市がほぼ16%から18%なのに対し、羽村市が10%と低いのは何故か。</p> <p>(3) 東京都の給料表で試算した場合、地域手当が20%の自治体、16%の自治体と比較すると、羽村市のように10%の団体では、主任クラス、課長クラスで、それぞれ年間どのくらいの差が生じるか。</p> <p>(4) 経営努力割の根拠とされてきた市町村総合交付金の算定基準から地域手当が除外となつたが、その理由は何故か。</p> <p>(5) 2025年の勧告で、羽村市の地域手当の国基準は14.0%になった。努力している職員のモチベーションを維持し、貴重な人材の流出を防ぐためにも、地域手当の引き上げが必要と考えるが、市長はどう考えるか。</p> <p>3. 2期目の橋本市政で、停滞感のある羽村市政をどう変えるのか</p> <p>(1) 第6次羽村市長期総合計画では、「まちに広がる笑顔と活気もっと！くらしやすいまちはむら」とあるが、その理念は着実に実現している、また、しつつあると考えているか。</p> <p>(2) 前市長の時にはPSU(パブリックサービスアップ)作戦という言葉をよく聞いたが、これは、橋本市政でも引き継がれているのか。</p> <p>(3) 桑名市では、外国籍の人にも住みやすいまちづくりを目指すため、2024年6月から外国人支援コンシェルジュサービスがスタートし、外国語を使って様々な相談に笑顔で対応していた。羽村市でも導入する考えはないか。</p> <p>(4) 前市長の政策で評価し継続したい施策は何か。また、変えたい施策や、市長が独自色として新たに進めたいものは何か。</p> <p>(5) 2期目の橋本市政で、何を目指すのか注目していたが、まず、示されたのが公共施設の再配置であった。令和5年度に、羽村市は公共建築物の30%程度の抑制方針を決定したと羽村市公共施設再配置構想(たたき台)に書かれていた。市長選挙の際には、このことを公約として市民に示していたか。</p>	12月3日
-----	-----------------------	---	-------

①避難所の生活環境維持向上には段ボールベッドが欠かせないが、能登半島地震の避難所では、耐久性に乏しい製品も出回っていたとのこと。市の段ボールベッドの備蓄品は業界団体の推奨規格に適合した物になっているか。また、充足を図るべきではないか。

②25年間も長期保存が可能で、更に美味しくなったカレーや、栄養価が高く、調理不要で誰でも食べやすいゼリータイプの非常食等、費用対効果が高い商品も出てきている。絶えず調査、見直しを続けながら、導入を図ってはどうか。

③避難時における口腔ケアが重要視される中、歯ブラシだけでなく、水がなくても口腔ケアが可能な物品の導入を望む。

④トイレの消毒等の環境衛生品、またゴミ集積や廃棄物に伴うハエや蚊など、害虫への殺虫剤なども必要ではないか。

(3) ペット同行避難への対応について

①地域防災計画や避難所運営マニュアルにきちんと記されているか。

②各避難所の設置場所は風雨を避けられる場所になっていない所もある。改善を望む。

③ペットがいるため車中避難を選択する避難者もいる。車での避難の可否や車中避難のルール等、体制は整備され、周知されているか。

2. 利便性の良い地域集会施設管理運営システムの構築を

(1) 公共施設再配置構想（たたき台）には、公共施設として維持する地域集会施設は、より使いやすくなるように予約や鍵の管理方法等の運営を見直す、とある。これまで進めるべき課題だったと思うが、どのような管理運営方法をイメージしているのか。

(2) 煩雑な現状から出向かなくても済むシステムの構築を。

①羽村市公式LINE等を活用して、高齢者でも利用しやすい予約システムにしては。

②施錠・解錠も電子化したスマートキーで鍵の受渡しを不要にしては。

③使用料の決済を現金以外のカードや電子マネーも可能にしては。

(3) 新たな管理運営システムで市民・事業者へ利用の拡大を。

①誰でも気軽に利用できる新たな施設として広報・周知を。

②再配置構想を進める中で、できるところから新たな運用を始めてはどうか。

5人目	16番	石居尚郎 (60分)	<p>1. 持続可能で安心できる医療・介護の取組を</p> <p>(1)これまで、西多摩医師会が進めてきた在宅医療推進強化事業は、来年度以降、区市町村在宅療養推進事業として進められていくと、東京都は示している。この対応について聞く。</p> <p>(2)在宅医療・介護連携推進事業を進めていく上で、連携の要となり得る行政に、在宅医療・介護連携推進を担う部署が必要ではないか。</p> <p>(3)負担金を出している羽村市として、公立福生病院の経営及び望ましい体制をどう考えているか。</p> <p>(4)将来的展望として、西多摩地域で、地域医療連携推進法人化に取組んでいくことを、西多摩地域広域行政圏においても研究・検討してはいかがか。</p> <p>2. 水害・土砂災害における清流地区の孤立対策を急げ</p> <p>(1)令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練の訓練場所となった堰下レクリエーション広場は、羽村市地域防災計画のヘリコプター発着可能地点に指定されていない。指定する考えはあるか。</p> <p>(2)山の急斜面に沿うかたちで住宅地を形成している清流地区が、大雨浸水・河川氾濫・土砂災害による孤立地域となり得るのか、そのリスク認識を聞く。</p> <p>(3)堰下レクリエーション広場は、多摩川の増水時には使用できなくなる。清流地区の堰下レクリエーション広場以外にヘリコプターの離着陸場の設置は可能か。</p> <p>(4)避難経路を土砂災害のリスクのある、あきる野市道多西285号線（通称比丘尼坂）以外に想定できないか。</p> <p>(5)孤立する前に避難が可能となる、マイタイムラインの普及や地区防災計画の促進を、市としてもより積極的に推進すべきではないか。</p>	12月3日
6人目	9番	浜中順 (60分)	<p>1. 公共施設再配置構想（たたき台）は、もっと周知し意見の聴取を</p> <p>(1)たたき台では、松林小学校と武蔵野小学校、羽村第二中学校と羽村第三中学校の統合、コミュニティセンター・中央児童館・小作台図書室などを廃止する案を示している。施設利用者に対して統合・廃止する理由と時期を周知し、意見を聴取すべきではないのか。</p> <p>(2)パブリックコメントにかける「素案」作成に至った検討経緯を周知し、これに対する意見を聞くために、「素案」や素案の内容がわかるダイジェスト版を作成し、市内に全戸配布するとともに、再び市民説明会を市民が参加しやすい日時に数多く開き、意見を聴取すべきではないのか。</p> <p>(3)(1)、(2)の取組が十分にできるよう、パブリック</p>	12月4日

			<p>コメントの締切と構想の決定時期を延長すべきではないのか。</p> <p>(4) 地域集会施設の再配置について、地域の意見を十分に聞き取るために、これまでどう取り組み、今後どう取り組もうと考えているか。</p> <p>(5) 地域集会施設はこの機会に、利用申込手続きの変更だけでなく、市民により使いやすい施設にする必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①管理人を置く必要があるのではないか。 ②市民の住民福祉の向上・豊かな地域文化の創生など非営利活動での利用は原則無料とすべきではないのか。 	
7人目	7番	秋山義徳 (60分)	<p>2. 小・中学校教育の保護者負担の軽減を</p> <p>(1) 中学校部活動の地域移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どこまで具体化が進んでいるか。 ②技術指導費の有料化が予定されていると聞いているが、その実態はどうか。 ③これまで部活動では技術指導費は無料であったが、地域移行によって有料になることで、保護者負担が重くなると思われる。市はその負担をどう考えているか。 <p>(2) 教育費の保護者負担の軽減について、この15年間で以下の費用はどう変化し、それに対して市は負担軽減をどう進めてきたのか。推移を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材費 ②修学旅行費・移動教室費 ③卒業アルバム代 <p>(3) 文部科学省は令和7年6月25日付の「学校における補助教材及び学用品等に係る保護者等の負担軽減について」の文書で、算数セット、彫刻刀、裁縫セット等を例示し、保護者負担で購入していた教材を学校備品として整備し、保護者の負担軽減を図るよう通知している。市ではこれをどう実現しようとしているか。</p> <p>(4) 学校給食センターでは、物価高の影響で給食の質の確保に苦労していると聞いている。市としてどのような対策を考えているか。</p>	12月4日

- ア 市内で強盗などの被害は発生しているか。
 イ 市ではどのような対策を取っているか。
- ③住まいの防犯機器等購入緊急補助金について
 ア 大変好評で期間を延長したが、申請状況はどうか。
 イ 申請された防犯機器の傾向はどのような物が多いか。
- ④不審者について
 ア 市内の発生状況は。
 イ 情報があった場合どのような対応を取っているか。
 ウ 地域との連携はどうしているのか。
- ⑤羽村東小学校周辺の区画整理事業の工事地区は、道が入り組んでいて街灯も少ない。工事中のため、致し方ないのかもしれないが、改善策について何か検討できないか。
- (2)防災について
- ①本年8月29日～31日に「令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練」が行われた。実践的なものが多かったが、来年の羽村市防災訓練に生かせることはあったか。
 - ②災害などで水道管が破損した場合、市内の井戸水を利用する可能性があると考えるが、市内井戸の水質検査は定期的に行われているのか。
 - ③市内で災害時に炊き出しのできる公共施設はどこか。
 - ④飲食業者や農家と災害時の炊き出しの提携を検討してはどうか。
- (3)獣害について
- 今年は各地で熊による被害が多発しており、被害者や物的被害は増加し続け、警察や自衛隊の出動が必要になる社会問題となっている。近隣市町村でも目撃情報が出ている状況である。
- ①熊、猪など、獣の出没情報や被害はあったか。
 - ②目撃情報があった場合、どのような対応を行うのか。
 - ③具体的な対応方法についての検討や話し合いは行っているのか。
- (4)第六次長期総合計画に掲げる5つのコンセプトのひとつ「くらしを守る」では、災害や犯罪などから、自助・共助・公助により、私たちの“くらし”を守ることができるまちを目指します、としている。今後、市民が安心して安全に暮らせるために、何か新たな施策を考えているか。

2. こどもまんなか社会に向けた取組について

- (1)子ども食堂の2事業者が休止することとなつたが、市は状況を把握しているか。
- (2)福生市では令和5年度から東京都の「子供食堂推進事業補助金」を活用し、子ども食堂に対し正式にバックアップを始めている。開設費50万円、

8人目	10番 富 松 崇 (60分)	<p>ランニングコストに対して月々2万円を支援しており、現在6団体が支援を受けている。市でも検討してはどうか。</p> <p>(3)青梅市では、令和8年度末に「青梅市こども基本条例（仮）」の制定に向けて動いていると聞いた。条例制定に向けた検討体制の方向性として、「子どもの権利保障をはかる総合的な条例」として、直近で制定又は改正を行った自治体の取組を参考するとともに、青梅市こども計画で目標としている「こども会議」及び「若者会議」の構築を、条例検討に合わせて進めていくことを掲げている。青梅市では、「青梅市こども計画」を運用し、更に「青梅市こども基本条例（仮）」の制定を目指している。子供の権利条例について、市はどのように考えているか。</p> <p>1. 道路の除草について</p> <p>(1)道路・歩道の除草はどのように行っているのか。 (2)道路わきや歩道、植樹帯など雑草が生い茂っている箇所が多く見受けられる。除草の頻度について伺う。 (3)雑草が生い茂っている箇所が多く見受けられる理由について伺う。 (4)除草は事業者への委託なのか、それとも職員による直営での作業なのか。また、委託なら年間の予算額は。 (5)除草作業が追いつかないのなら、除草ボランティアとして町内会・自治会などにご協力いただくことを検討してはどうか。</p> <p>2. リチウムイオン電池の処分について</p> <p>(1)現在、モバイルバッテリーや電子たばこなどのリチウムイオン電池の処分はどのように行えば良いのか。 (2)市で回収を行う検討はしたか。 (3)リチウムイオン電池の処分について、市は基本的に販売店での回収や協力店に持ち込むことと決めているがネット通販などで購入したもの、リサイクルマークのないものが多くある。その場合、販売店への回収依頼や協力店へ持ち込むことは難しいと考える。他自治体では回収を実施しているところもあるが、羽村市でも回収を始めてはどうか。</p> <p>3. エイゼムスプロジェクトについて</p> <p>(1)太陽光発電システムとリチウムイオン二次電池による電力供給システムの運用状況について伺う。 (2)「電気バスはむらん」の運行がない現在、庁舎内での消費量が増えて、電気代の歳出抑制につながっているのか伺う。 (3)公共施設再配置構想のたたき台では西分室の廃</p>	12月4日
-----	-----------------------	---	-------

<p>止が検討されている。その場合、屋上に設置している太陽光発電システムをどこに移設する考えなのか伺う。</p> <p>(4) 太陽光発電システムとリチウムイオン二次電池による電力供給システムの導入費用について伺う。</p> <p>(5) 平成27年から運用が始まったエイゼムスプロジェクトも10年が経過した。太陽光発電システムやリチウムイオン二次電池も耐用年数が近づいていると考える。機器の交換には多額の費用が発生すると思うが、機器の入れ替えをどのように進めていく考えなのか伺う。</p>			
9人目	6番	<p>菅 勇 真 (60分)</p> <p>1. 羽村市の教育について</p> <p>(1) 不登校児童・生徒について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和4年度から令和6年度の3年間、90日以上欠席のある児童・生徒数はどう推移しているか。 ②令和4年度から令和6年度までの不登校児童・生徒出現率の推移は。また、都と比較してどうか。 ③心理や福祉の専門家からの支援を受けられない不登校児童・生徒が出ないように、どのような工夫をしているのか。 ④不登校になる前に子供の悩みや不安に気づき、速やかに組織的に対応することが重要であると考えるが、市では具体的にどのような対策を行っているのか。 <p>(2) 特別支援教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①特別支援教室等の指導・支援の対象者と思われる児童・生徒がいた場合、保護者へのお知らせの仕方、関係機関への案内及び支援等はどのように行われているのか。 ②特別支援学級に関する児童・生徒の就学相談はどの時期に、どのようなメンバーで構成し、実施しているのか。 ③個々の児童・生徒の特性、保護者の意向、関係者の判断等を踏まえ、将来を見据えた進路先を決定していくことが重要であると考えるが、市として工夫していることは。 <p>2. 市民の声について</p> <p>(1) 公園管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指定管理者記載の業務日誌を担当部署は定期的に確認しているのか。また、業務に対する指導・助言等を行ったことはあるのか。 ②あさひ公園東側に落ち葉対策用のネットを設置してほしいとの声があるが、市の見解は。 <p>(2) 防犯カメラについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ①現在市内には何基の防犯カメラが設置されているのか。 ②双葉町内に防犯カメラは設置されているのか。 	12月4日

10人目	4番	野 崎 和 也 (60分)	<p>③今後、市内に防犯カメラを新たに設置する予定は。</p> <p>(3)近隣市で目撃されているクマについて ①羽村市内でも目撲されているのか。 ②羽村市内にクマ等の出没に対応できる狩猟免許保有者は何人いるのか。</p> <p>(4)神明台にあるスーパー・アルプス前の産業道路を横断する人が増え、いつ事故が起こってもおかしくない危険な状況になっているが、市としてその状況等を把握しているか。</p> <p>(5)羽村高校からの声について ①羽村高校では卒業後の進路として就職する生徒が増えている一方、就職しても途中で辞めてしまう人も一定数いると聞く。そういった卒業生に、羽村市の企業を紹介するような場を設けられないか。 ②動物公園通りの富士見斎場駐車場付近に横断歩道を設置することはできないか。</p> <p>1. 市内企業との協働による若者の市内定着促進と羽村高校の魅力発信について</p> <p>(1)若者が地域に愛着を持つまちづくりにつなげるため、都立羽村高等学校と協力しながら、高校の魅力とともに羽村市の魅力も効果的に地域へ発信していく取組を行う考えはあるか伺う。</p> <p>(2)若者が市内企業の情報にアクセスしやすくなるような紹介ツールの整備や、企業を直接見る機会を設けるなど、若者と企業をつなぐ取組を進めていく考えはあるか伺う。</p> <p>(3)市内企業や市民と羽村高校が連携し、羽村高校の探究成果や高校生の視点を地域の力として活用する場となる「(仮称) 地域探究フェスタ」を開催してはどうか、市の見解を伺う。</p> <p>(4)羽村高校を含む若者・企業・地域を継続的につなぐコーディネーター機能の整備について、市の見解を伺う。</p> <p>(5)若者の市政参画を促し、地域課題を「自分事」とする高校生模擬議会の実施について、市の考えを伺う。</p> <p>(6)こども家庭庁が示す、こども・若者の多様な居場所の必要性を踏まえ、高校生が気軽に集まれる居場所・地域とつながる場・挑戦できる機会をどのように整備していくのか、見解を伺う。</p> <p>(7)健康教育・キャリア教育・定住促進の3つを関連付け、学校と連携しながら高校生へ情報提供する仕組みの構築を検討しているか。</p> <p>2. 羽村市検査事務規程に基づく基準の見直しについて</p> <p>(1)羽村市の検査事務規程において、検査員の検査を</p>	12月4日
------	----	-------------------------	---	-------

11 人目	13 番 鈴木拓也 (60 分)	<p>要しない工事として定められている小規模工事の検査基準は現在いくらであり、その検査が最後に改定された時期はいつか。</p> <p>(2) 過去数年間の建設資材の高騰率や労務単価の上昇と比較して、現行の検査は実態に即していると認識しているか。市としての課題認識について伺う。</p> <p>(3) 資材価格の高騰や消費税込みの価格を踏まえると、小規模工事として処理できる件数が減少し検査数の増加や市職員の業務量増加、更に、発注から工事完了までのスピードの低下が懸念される。実際に検査件数の増加などが生じているか、市は現状をどのように把握しているのか伺う。</p> <p>1. 学校の統廃合は、保護者・子供の意見を十分踏まえたものに！</p> <p>(1) 松林小学校と武蔵野小学校、羽村第二中学校と羽村第三中学校を統合する案について、市民の意見がどのようなものであると把握しているか。</p> <p>(2) 松林小学校の保護者からは通学に対する不安の声が多く出ており、市はスクールバスの検討を進めるとしている。どういう案を考えているか。いつ結論を出す予定か。</p> <p>(3) 私の独自調査では、松林小学校の統合について、松林小学校の保護者の約7割が反対している。こういった状況下で、統合は行うべきではないのではないか。</p> <p>(4) 対象校の全保護者、全児童・生徒を対象にアンケートを行い、計画に反映すべきではないか。</p> <p>(5) 「素案」を決めた後、素案に基づく「懇談会パート2」を市内全域で行い、そこでの意見を更に計画に反映させるべきではないか。</p> <p>(6) 令和8年3月の「構想」決定は延期すべきではないか。</p> <p>2. 市民が使いやすいプレミアム付き商品券と水道料金の減免の実施を！</p> <p>(1) プレミアム付きデジタル商品券の再販売がされている。なぜか。</p> <p>(2) 今後は、デジタルによる商品券と紙の商品券との両方を販売すべきではないか。</p> <p>(3) 市民の利用実態から、今後は、どこでも使えるA券の割合を大きくすべきではないか。</p> <p>(4) 国の補助金を活用して、水道料金の減免を実施すべきではないか。</p> <p>3. 都市計画税はどこにどう使われている？</p> <p>(1) 都市計画税は、どんな事業に使うことができるのか。</p> <p>(2) この3年間、都市計画税は何に使われたか。</p> <p>(3) この3年間、都市計画税を充当できる事業に、使</p>	12月4日
-------	------------------------	---	-------

			途を限定されない税金がどう使われてきたか。 (4)今後、羽村駅西口土地区画整理事業とこの事業の借金返済に都市計画税が多く使われることになると、他の都市計画事業にまわす財源が足りなくなるのではないか。 (5)都市計画税の使途について、一般会計等決算審査特別委員会などでの答弁と、国へ提出している「都市計画税の課税状況等の調」の内容とは違がある。なぜか。	
12人目	17番	濱 中 俊 男 (40分)	1. 羽村駅西口土地区画整理事業の進展について (1)現在の課題をどう捉えているか。 (2)10月末に一般都道250号あきる野羽村線の一部が開通した。広域幹線道路としての機能を発揮するためには、都市計画道路3・4・12号線の開通が不可欠である。工事の着手は令和8年度から9年度と承知しているが、予定の変更はないか。 (3)羽村駅西口について ①駅前交通広場の整備予定は。 ②基盤整備が行われるこの機会に、賑わいの創出など、更なる商業振興策を考えてはどうか。 ③駅前交通広場整備後の観光案内所の場所及び、観光施策をどうしていく考えか。	12月5日
13人目	1番	林 田 敦 子 (60分)	1. 小学校でも認知症サポーター養成講座を (1)「認知症サポーター養成講座」の現状について ①認知症サポーター養成講座を開始した時期と受講した延べ人数の推移は。また、「ステップアップ講座」の受講延べ人数は。 ②中学校で認知症サポーター養成講座を開始した時期と受講した延べ人数、その導入背景は。また1年生に限定している理由は。 ③親子で受講する認知症サポーター養成講座を開始した時期と受講した延べ人数、子供の年齢別受講者数は。また、導入背景は。 ④受講者の感想は。 ⑤キャラバンメイトや関係団体などが養成講座を行っている場合、実施状況、参加人数などは把握しているか。 (2)現時点で、中学生には認知症サポーター養成講座を導入しているが、小学生に導入していない理由は何か。 (3)今後、小学生への認知症サポーター養成講座を授業の一環として導入する予定はあるか。 2. 公共施設におけるAEDの設置運用状況について (1)公共施設に設置されているAEDについて ①現在、防災マップに掲載されている情報に変更はないか。	12月5日

14 人目	18 番 門 間 淑 子 (60 分)	<p>②防災マップに更新規定はあるのか。</p> <p>③1台あたりの導入費用、ランニングコスト等はどの程度か。</p> <p>④買取りカリース契約か。</p> <p>⑤各施設の維持管理の主体はどのようにになっているのか。</p> <p>⑥AED を 24 時間使用できる施設は何か所あるか。</p> <p>(2)市内小学校、中学校に設置している AED について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校内に設置している AED の管理者は校長との理解でよいか。 ②配置台数、配置場所などの設置状況はどうなっているか。 ③夜間や休みの日に AED が必要になったケースはあったか。 ④校舎内に設置をしている場合、外部設置をしない理由は。 <p>(3)貸出し用 AED について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貸出し用 AED はどこに何台用意されているのか。 ②予約制か。使用手続はどのような流れか。誰でも使用可能か。 ③現在までの稼働状況は。 <p>(4)宮の下運動公園への AED 設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①過去 3 年間の宮の下運動公園の利用状況は。 ②時季によるが、土曜日、日曜日の利用がとても多いと聞く。AED の設置はされているか。 ③今年 8 月に「令和 7 年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練」が宮の下運動公園を会場として実施された。災害時等のヘリポートに指定されている場所もあるので、AED の設置が必要ではないか。 <p>(5)救命率向上の観点から、誰もが必要時に利用できるよう環境を整えることが重要だと考えるが、市は今後どのようにしていく考えか。</p>	12 月 5 日
-------	---------------------------	---	----------

		<p>⑤新刊が少なく古い本が多い、新陳代謝されていない、との声は改善されたか。</p> <p>⑥シリーズものの欠番がある、との声は改善されたか。</p> <p>⑦瑞穂町図書館は禁止事項を設けず、居心地の良い図書館運営をしている。羽村市では、「飲食や過度な会話には逐次注意し、小さな子ども連れの人には、他の利用者の読書環境を妨げないよう職員から積極的な声掛けをする」との見解だが、この運営方針を継続していくのか。</p> <p>⑧近隣自治体でも、居心地の良い図書館の運営が増えている。情報収集などしているか。</p> <p>⑨偽情報があふれる時代に、図書館の重要性が増している。公共施設再配置構想では、小作台図書室を廃止するとなっているが減らしすぎではないか。</p> <p>(3) 「本のリサイクル」は、参加者の姿が多くた。開催回数を増やしてはどうか。</p> <p>(4) 入り口扉が故障したままだが、いつ修繕するのか。</p>	
15人目	14番	<p>2. 道路率30%の区画整理は見直しを</p> <p>(1) 羽村駅西口土地区画整理事業は、国や東京都からの「事業期間が長すぎる」との指摘を受けて令和18年度(2036年度)を事業の最終年度とした。市は、以降の事業延伸は不可能との認識でいるか。</p> <p>(2) 駅前交通広場の本格的な整備は、令和12年からの答弁だった。今後の11年間で、事業が全て完了するとの認識でいるのか。</p> <p>(3) 建設資材や人件費の高騰は、どのように影響しているか。</p>	12月5日

- ⑤区域内 250 棟のうち、6か年事業実施計画では 190 棟の移転を予定している。残り 60 棟はどの区域でいつ実施するのか。
- ⑥新奥多摩街道から JR 線路までの高低差は福生側境界 5.1 メートルで、駅前は 1.8 メートル。下水道は下流からの整備が原則。高位置の仮換地先使用時期の長期化への影響と、面整備が整わなかった時の対応策を聞く。
- ⑦6か年で「住民の利便性向上のため羽村大橋から JR 踏切までの都市計画道路 3・4・12 号線、駅前交通広場整備と道路用地確保を進める」という。それぞれの着工、完了予定の時期はいつか。
- ⑧4年後の 2029 年に優先事項 3 点が完了しなければどう対応するのか。2036 年の事業終了時までの整備目標か。
- ⑨仮に、現在の鎌倉街道の福生側地域で終了すれば、「区域の一部除外によって減歩率を厳しくしなければならない」との答弁があったが、その根拠を聞く。この区域は、都道などへの東京都交付金 86 億円が充てられ、権利者負担が減少するのではないか。
- ⑩事業計画期間 33 年のうち 22 年を経過し進捗率は 21%。事業市費は 40% と倍増している。仮に 42 ヘクタール全域なら残り 765 棟の取壟し移転に約 39 年かかる。一方、6か年計画に沿えば市費は 156 億円で 71% の使用。残り 7 年で現在の区域全体の整備は事業市費 220 億円で収まると想定しているのか。
- ⑪区画整理事業は全戸が納得し、移動しなければ完了しない。「施行ルートや換地先変更などを検討する」というが、優先事項整備のためには、面整備を避け沿道整備街路事業に転換すべきではないか。
- (2) 区画整理実施区域の権利者の苦痛をどう考えているか。
- ①権利者の多くは高齢者。住まいの取壟し移転の苦痛を、施行者としてどう捉え対応しているか。
- ②移転の是非は、権利者の権限にもかかわらず、交渉拒否の家庭にチラシを投函する目的とその内容は何か。移転の圧力をかけていると思わないのか。
- ③2月に移転する家の道路を挟んだ向かい側では、我が家に何の説明もない、と疑問視している。6か年実施計画の区域住民には、どのような資料を配布し、説明しているか。
- ④駅前近くの権利者が事業予定を聞きに区画整理事務所に行ったが、さっぱり分からなかったという。どのような資料を渡し、どのように説明をしているか。
- ⑤2024 年度までの仮換地指定 235 画地のうち、使

			用開始可能は 153 画地。うち、95 棟が再築。使用可能 58 画地はなぜ再築されないのか。また、使用不可の 82 画地の権利者の現状は。	
			⑥仮住まいは 5 ~ 20.5 か月という。事業開始以後、移転交渉でもそう説明しているのか。ならば移転 204 棟中、期間内の仮換地先使用可能件数は。	
			⑦2003 年度からの、仮住まいの総件数、最長年数、平均年数は。	
			⑧2024 年度は中断移転 53 件、仮住まい 11 件というが、これは、移転 204 棟中、期間内の仮換地先使用可能件数や 2003 年度からの、仮住まいの総件数、最長年数、平均年数と同数になるのではないか。その使い分けの違いと、これまでのそれぞれの最短と最長、平均の期間を聞く。	
			⑨9 月定例会で、10 月に設置予定の「駅前周辺まちづくり懇談会」の質問に答弁がなかった。設置時期、対象範囲、棟数、検討課題を聞く。	
			⑩地域人口は 3400 人が 2304 人と、1096 人減少したという。計算基準と、減少理由は。また、町内会など地域活動への影響をどう捉えているか。	
16 人目	3 番	池澤 敦 (60 分)	1. 公共施設再配置構想を踏まえたゆとろぎ及び図書館を活用した多世代の居場所づくりについて (1) ゆとろぎ周辺エリアの位置付けと役割認識について 今後どのような公共エリア・拠点として整備・再編していきたいと考えているのか、市の将来ビジョンを伺う。 (2) アンケート結果と課題認識について 令和 6 年 11 月の「公共施設に関するアンケート調査 調査結果報告書」を踏まえ、ゆとろぎを含む周辺公共エリアには、どのような課題・ニーズがあると受け止めているか伺う。 (3) ゆとろぎの創作室等の活用について ①創作室の利用状況について、昨年度の利用率をそれぞれ伺う。 ②創作室は、利用がない日には、放課後の子供・若者や高齢者など多様な世代が自由に滞在できる常設の「居場所」として位置付け、多世代交流の場や新しい形の学習・文化活動の場になると見込むが、市の考えを伺う。 (4) 居場所づくりとマナー・見守り体制について ゆとろぎとして、居場所づくりを進めるに当たり、基本ルールや注意喚起、職員と地域団体との役割分担をどのように設定し、マナーと安心・安全を確保していく考え方、現状と今後について伺う。 (5) 図書館の機能強化と子供の居場所づくりについて ①図書館の位置付けと現状の課題認識について	12 月 5 日

公共施設再配置構想（たたき台）の方針と羽村市こども計画の位置付けを踏まえ、本館である羽村市図書館（ブリモライブラリーはむら）を、今後どのような役割・機能を担う施設として位置付けていくビジョンがあるのか。また、子供の居場所づくりや読書活動推進の観点から、現状どのような役割を果たしていると認識しているか伺う。

②利用ルールと「居場所」としての環境づくりについて

令和6年11月の公共施設アンケートの結果を踏まえ、図書館が子供・若者の居場所としての役割を一層高めていく必要性について、どのように考えているか伺う。

③ゆとりぎも含めた利用ゾーンの拡張について

交流の橋を活用し、貸出登録を行わなくても館内の資料をゆとりぎの館内であれば、持ち出して閲覧できるようにすることはできないか。飲み物を片手に読書・学習ができるようになると、令和7年度から充実を図っている雑誌コーナーの活用や、1階カフェ「コナモーレ」の利用促進、新たな利用層の開拓にもつながると考えるが、市の見解を伺う。

④小学校入学時の利用者カードの配布と学校等との連携について

羽村市こども計画に掲げる「子どもの居場所づくり」や読書活動推進の観点から、小学校入学時にすべての新小学1年生へ入学のお祝いとして「利用者カード」を配布し、図書館を「放課後の居場所」として身近に感じてもらう仕組みを導入してはいかがか、市の見解を伺う。

2. 循環型社会の推進と環境学習に資するゆとりぎりサイクルセンターの連携について

(1) リサイクル品販売事業の現状と委託・民間連携の評価について

①平成28年度から令和6年度までのリサイクルセンターにおけるリサイクル品販売事業について、販売品数・売上額・1点あたり単価の推移をどのように分析しているか伺う。

②リサイクルセンターのリサイクルショップ運営を羽村市シルバー人材センターに委託しているが、高齢者の就労・社会参加の場という観点からどのように評価しているか、今後の展開の方向性と併せて伺う。

③程度が良好なものであっても、売場面積等の制約から十分に展示・販売できず、結果として処分せざるを得ないケースも過去にはあったと聞くが、こうした状況についてどのように実態を把握し、今後改善していく考え方を伺う。

- (2) 市の中心部から離れたリサイクルセンターの立地条件が、若い世代や自家用車を持たない世帯等にとって利用のハードルになっている可能性について、どのように受け止めているか伺う。
- (3) ゆとろぎ創作室等を活用した「多世代交流の場、兼第2の売り場」モデル事業について
リサイクルセンターから搬出したリサイクル品でしつらえた「多世代交流の場、兼第2の売り場」を、ゆとろぎの比較的の利用率の低い部屋を活用することで、環境学習・多世代交流・新たな財源確保を一体的に進めることができるのではないかと考えるが、一定期間モデル事業として実施してはどうか。
- (4) (3)を実施することで、子供や若者がリサイクル品に実際に触れ、環境や3R(リデュース・リユース・リサイクル)の意義を感じながら過ごせる「環境を学びながら過ごせる子どもの居場所」の一つとしての機能を果たせると思うが、どうか。
- (5) リサイクル品を公共施設に展示及び実際に活用することによる、市民への環境学習の機会の創出についての考えは。